



土岐市教育研究所
TEL FAX 0572-54-1111 (内373)
0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.572
発行責任者 所長 河合 広映
発行日 令和5年 11月 17日
題 字 山田 恭正 教育長



撮影 濃南小学校
柴山 道代 教頭先生

「お兄さんに
本を読んでもらえて、
うれしいな！」
小・中たてわり読み聞かせ活動にて

備忘録（メモ）の考え方

土岐市教育研究所長 河合 広映

「備忘録」というと先生方は何を思い浮かべるのでしょうか。週案簿でしょうか？子どもたちと会話した内容や指導した内容、行事の記録など、きれいに色分けして整理された週案簿は若手のころ、管理職の先生方からお手本として渡された記憶があります。週案に書く授業記録も同様です。本時の授業でどんな内容の授業を行ったのか、教科書の何ページまで進んだのか。授業の時にいなかった欠席者まで細かに記録された週案簿は、自身の指導の軌跡となります。今回、タイトルとした「備忘録」はそうした児童生徒への指導の記録や授業の記録ではなく、ふとした時に見返すためのメモの話です。

例えば、授業研究会で目からうろこの指導内容を聞いた時、教科に関する本を読んで、「これは活かせるかも」と感じた時、講演会を聞いて、「なるほど」と感じた時、本を読んで、これは何かに使えるかもと思った時、そういう時、先生方はどんな方法で何に記録をしているのでしょうか。

実は若い頃、「そういえばあの時、誰かに似たような話を聞いたなあ。どこにメモしたっけ。」とか、「たしか、この考え方について本で読んだ記憶があったなあ。なんの本だったかなあ。」など、記憶が記録として残っておらず、思い出したいときには頭の中から消えていく経験を何度もしました。そんな時、どうやって記憶を記録しておけばいいのだろうと考えたものです。授業を参観した時、授業者や指導者からなるほどと思う話を聞いて指導案にメモしても、その指導案は研究会が終わるとファイルに挟み込んでしまい、次に開くことはほぼないということも度々です。そこで、30代の前半のころ、聞いたことや読んだこと、なるほどと感じたことや、こうするといいかもとふと浮かんだアイデアなどをメモしておくような備忘録を作ってみようと考えたのです。当時は、システム手帳のような、ノートを継ぎ足したり、減らしたりできるものを使っていましたが、手帳から抜いてしまうと、もうそれは見なくなるということも経験からわかってきました。スマホのアプリで記録することも試してみましたが、どうやっても整理ができません。ほしい情報にたどり着かないのです。カテゴリ別に整理することが苦手なのかもしれません。「話を聞く時こは何でもかんでもメモをせず、話を聞き終わった後、その話の中で記憶に残ったことだけを回想してメモすることがよい」

という話を聞いて、人の話をメモせず聞き、会議の後から記憶に残っている言葉をメモするなんていう横着なことも行っていました。しかし、最近では、記憶力の低下から、聞いたすぐに書き取らないと忘れてしまうようになってしまいました。だから、できるだけメモを取ることにしたのです。でも、どうメモを取ればいいのか、どう残せばいいのか、どうやって整理すればいいのかなど多くの疑問がわいてきて、それを解決するためにメモに関する書籍も随分と読みました。そして、最近、自分が感じていた疑問に答えてくれるような本に出会いました。「考える人のメモの技術 コクヨ株式会社 下地寛也」です。まず、冒頭部分に書いてあった、下地さんのそもそものメモの疑問に共感したのです。

ア きれいに書く方がいいのか、殴り書きでもスピーディーに書く方がいいのか。

イ ノートは大きい方がいいのか、持ち運びやすいサイズがいいのか。

ウ 内容は1ページにまとめるか、ずらずら書いていくのか。

など。下地さんは、メモの使い道を、①記録する使い道 ②情報を集める使い道（インプット） ③考えるための使い道（アウトプット）に分類しています。ですから、結果からいうとアイウどれも正解なのです。①②③の用途によって変えるということです。しかもメモは「手書きがいい」と述べています。ここも共感です。手書きメモがいい理由を「自由度・一覧性・記憶定着・創造性」の4点にまとめています。もちろんタブレットでまとめることも否定はしていません。状況によって使い分けるということです。

現在私は、メモには「LEUCHTTURM」、筆記具は水性ペン・万年筆、そして、Multi 8という色鉛筆、付箋を使いながら試行錯誤しながらメモを作成しています。まだ、私の場合は下地さんのいう①②までしかメモを活用していませんが、それでも、情報が散らかってしまい、ほしい情報が見つからないことが多くあります。書籍を読み、いろんな人のメモ実践も試してみましたが、長続きしそうな自分に合う方法は今なお見つけられずにいます。みなさんは、どんな方法で記憶やひらめき、人から聞いた話などを整理しているのでしょうか。もし、良いメモ方法があれば教えてください。

泉

学校に吹く風



泉中学校長
長谷川広和

「生徒全員で楽しめる競技もいいが、みんなで力を合わせて、1つのことに向かって必死になって取り組む姿は、胸にじんときますね。」
9月の体育大会を参観された地域の方が、そんなことをおっしゃられました。

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は、多くの制限・制約を受け、これまでの日常、学校の様子は一変しました。3密を避ける、マスクをする、黙食するなどに代表されるように、私たち教員は、子供に“命”の大切さや、互いに配慮し、助け合う“共助”を教えながらも、人と人との積極的なコミュニケーションを避ける指導を重ねました。また、GIGA スクール構想のもと、令和のスタンダードである一人一台タブレットが整備され、子ども一人一人の学びを保障しようと、ICT 機器を積極的に活用してきました。そして、「できることを工夫して」と、これまでの教育課程や体育大会などの学校行事を待たないで見直してきました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、これまでの日常が戻りつつある今、私たちは一度立ち止まり、この3年間を振り返りながら、学校という存在の意義と、日々行っている教育活動の意味を、改めて考え、見極めていかななくてはならないと思います。

学校に吹く風

学校には、学校それぞれの風が吹いています。学校へ一歩足を踏み入れると、その学校独特の雰囲気、匂いに包まれます。それは、その学校の生徒と先生方が日々大切にしていることが、環境や習慣として滲み出てきたものだと思います。1ヶ月、1年という短い期間で生まれたものではなく、地域の学校として、多くの先輩方（生徒・保護者・教員）の力で積み上げてきたものです。その風が、生徒を包み込み、生徒はそのなかで呼吸を繰り返し、日々の学校生活の中で、生き方を習慣として身に付け、成長していくものだと思います。

泉中の風は、学校の教育目標「創造・自主・協同」と、「めあてづくり」「自分づくり」「仲間づくり」の【三づくり】によって創られています。

- めあてづくり：より高い目標をつくり、求め続ける
- 自分づくり：自ら選択し、自分の学びと生活をつくる
- 仲間づくり：仲間と高め合い、よりよい集団をつくる

この【三づくり】は、毎日繰り返される学校での生活や学習の中で、生きるめあてや生き方を築かせ、自分自身への自信と誇りをもって、社会にひとりだちする力を身に付けさせる指針です。私たちは、正面玄関にあるウェルカムボードで、毎日生徒へ【三づくり】のメッセージを投げかけています。生徒に話をする時は、【三づくり】で話すようにしています。最近では、生徒会や生徒代表の話の中で、生徒自身が【三づくり】という言葉を使って話をしてくれます。生徒一人一人の心に定着するまで、粘り強く取り組みたいと思います。

泉中と言えば・・・

泉中と言えば【バズ】。伝統の【バズ】と言われ、長年取り組んできました。本年度は、その意味を再確認し、教育活動の中心に据えています。朝の会から、班隊形になってめあてを交流するなど、生活でも学習でも【バズ】を位置付けています。

【バズ】こそが、【三づくり】を具現する大切な手立てと考えるからです。先輩は言っています。

『泉中のバズは、芋こで教育。どの子も班（桶）からもれることなく、全ての子どもが心を触れあうことができ、磨かれていく。どの子も磨かれるよう、決して桶から取りこぼさない。時には手にとって磨き具合を見届け、磨く動きを止めぬよう、手を休めない。子どもの個性は皮の中に存在し、磨かれた後に、それぞれの個性が表に出てくる。』

私たちは、【バズ】を通して、仲間を知り、自分を知り、力を合わせて創造する喜びを味わわせたいと思っています。子どもの数が減少し、人と人との直接的なかわりや、心からのやりとりが少なくなってきたからこそ、地域のなかで、多くの大人に見守っていただける義務教育の時期に、人と積極的に対話する【バズ】を大切にしたいと思っています。

不易と流行。この3年間を経て、私たちは時代と共に変わっていくことと、決して変えてはいけないものがあることを改めて学びました。「高く高く己が心を」「強く強く己が体を」「励め励め己が勤めを」と校歌に込められた願いを胸に、生徒に寄り添い、向き合いながら、【三づくり】【バズ】を通して、新たな時代を創り出していく、自信と誇りにあふれた生徒を育てていきたいと思っています。

令和5年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現
 実践報告 泉西小学校 青木 勇太

【日時】令和5年 6月 20日(火) 第5校時
 【学級】泉西小学校 2年1組
 【単元名】100より大きい数
 【本時のねらい】

3位数の表し方を話し合う活動を通して、数をいろいろな見方で見ることができることに
 気づき、3位数を多面的に見て表すことができる。

【視点1】 導入「やってみたい」

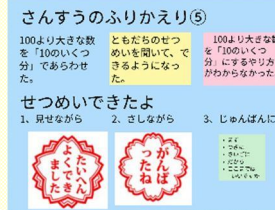
教科書の問題を穴埋め形式に変更することで、どう答えればよいか明確にする。



ここには、
 どんな言葉
 を入れると
 いいかな。

【視点3】 終末「できた」「わかった」

学習の達成状況をロイロノートの色で自己評価し、説明の仕方についてペアで評価し合う場面を設定する。



テキストの色を
 青・黄・赤で
 評価する

項目ごとにペア
 からスタンプを
 もらう

【視点2】 展開

個別最適な学び



必要に応じて活用できるように、ロイロノートで考え方のヒントとなる資料を配付する。

○図なら
 わかるかも！

協働的な学び

410は100
 が4こと…



私と同じ
 考えだ！

本時の学習のアウトプットの場として、ペアでの話し合い活動を設ける。

実践を終えて

- ・問題を穴埋めにして例示することによって、取り組むべきことが明確になり、意欲的に課題追究に励むことができた。
- ・ロイロノートの図や数直線を活用することによって、児童間で自然に資料を見せたり操作したりしながら説明することができ、協働的な学びにつなげることができた。
- ・位の部屋や数直線といった資料を活用することによって、3位数を多面的に捉えることができた。

展開詳細

	学習活動	指導・援助								
導入	<p>1. 問題を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> もんだい つぎの□に入る文はなんでしょう。 270という数は、数です。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・例文を読み、答え方のイメージを確かにする。 <p>2. 課題設定をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 270をいろいろな見方で、せつめいしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起させた上で、問題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【視点1】やってみたいを引き出す 教科書の問題を変更し、穴埋め形式にすることで、どう答えればよいか明確にする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・例題を○図でも提示し、イメージしやすくする。 								
展開	<p>3. ペアで交流後、全体で見通しをもつ</p> <p>○270はどのような数でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10を27こ集めた数 ・ 269より大きい数 ・ 百の位まである数 ・ 一の位が0の数 <p>4. カルロス・さくらの説明について考える</p> <p>○それぞれの場合の数の大・小について考える。(個人追究)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【さくら】 270は、200より (大きい・小さい)数です。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【カルロス】 270は、300より (大きい・小さい)数です。 </td> </tr> </table> <p>○それぞれの数との差を考え、より具体的に説明する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【スーパーさくら】 270は、200より <input type="checkbox"/>大きい数です。 ↑ $270 = 200 + 70$ →全体で交流する </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 【スーパーカルロス】 270は、300より <input type="checkbox"/>小さい数です。 </td> </tr> </table> <p>5. 410をいろいろな見方であらわし、隣同士で説明し合う</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 【乗法的見方】 ・ 100を4こと10を1こ ・ 10を41こ </td> <td style="width: 50%;"> 【加法的見方】 ・ 400より10大きい </td> </tr> <tr> <td> 【その他の見方】 ・ 百の位が4 ・ 4と1と0を使った など </td> <td> 【減法的見方】 ・ 500より90小さい </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 大きい数は、10や100をいくつ集めた数かや、○百より大きい、小さい、という見方でせつめいできる。 </div>	【さくら】 270は、200より (大きい・小さい)数です。	【カルロス】 270は、300より (大きい・小さい)数です。	【スーパーさくら】 270は、200より <input type="checkbox"/> 大きい数です。 ↑ $270 = 200 + 70$ →全体で交流する	【スーパーカルロス】 270は、300より <input type="checkbox"/> 小さい数です。	【乗法的見方】 ・ 100を4こと10を1こ ・ 10を41こ	【加法的見方】 ・ 400より10大きい	【その他の見方】 ・ 百の位が4 ・ 4と1と0を使った など	【減法的見方】 ・ 500より90小さい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いついたものを発言させる。見方によって教師側が分類していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【視点2】個別最適な学び ロイロノートで考え方のヒントとなる資料を配付し、必要に応じて活用できるようにする </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>数の線(数直線)</u> どれだけ差があるかを確認する。 ・ <u>○図</u> 10のいくつ分かをイメージしやすくする。自身で○図を操作できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「10が10こで100」の決まりを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【視点2】協働的な学び 本時の学習のアウトプットの場としてペアでの話し合い活動を設ける。「大きな声ではっきりと」「ノートを見せながら」「ノートを指で指しながら」話し合わせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアが説明できていれば、振り返りカードにスタンプを押す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【評価】 思考・判断・表現 数をいろいろな見方で見ることに気づき、3位数を多面的に見て表すことができた。(ノート・発言) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【視点3】できた分かったを実感する 学習の達成状況をロイロノートの色で自己評価させる。 青：2つ以上の見方で説明できた 黄：1つの見方で説明できた 赤：説明できなかった </div>
【さくら】 270は、200より (大きい・小さい)数です。	【カルロス】 270は、300より (大きい・小さい)数です。									
【スーパーさくら】 270は、200より <input type="checkbox"/> 大きい数です。 ↑ $270 = 200 + 70$ →全体で交流する	【スーパーカルロス】 270は、300より <input type="checkbox"/> 小さい数です。									
【乗法的見方】 ・ 100を4こと10を1こ ・ 10を41こ	【加法的見方】 ・ 400より10大きい									
【その他の見方】 ・ 百の位が4 ・ 4と1と0を使った など	【減法的見方】 ・ 500より90小さい									
終末	<p>6. 本時の振り返りをする</p> <p>「いろいろな見方で説明ができたかどうか」で評価。</p>									

令和5年度土岐市嘱託研修員会

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現
実践報告 駄知中学校 宮本 真実

【日時】令和5年 9月 12日(火) 第5校時

【学級】駄知中学校 2年A組

【单元名】Unit 4 Homestay in the United States

【本時のねらい】

学校生活について海外の中学生に紹介する活動を通して、「してはいけないこと」や「しなければならないこと」を説明する時には must や have to~が使えることに気づき、学校生活のルールやきまりを4文程度の英語で話すことができる。

【視点1】導入「やってみたい」



フランスの学校では、掃除の時間がないのか。私たちとは違うのかな。

フランスの学校に駄知中のことを紹介するために、日本と海外の学校の様子を比較し、伝えたい内容を具体化する。

【視点3】終末「できた」「わかった」



must not を使って、学校でしてはいけないことを伝えることができた!

ビデオレターを撮影し確認することで、自分の変容や成長を実感する。

【視点2】展開

個別最適な学び



必要に応じてヒントカードや教科書を活用し、自身の伝えたいことを表現する。

協働的な学び

「しなければならない」は must で表現できるよ!



Sharing Time を通して、仲間とアドバイスし合い、発表内容を加筆・修正する。

実践を終えて

- ・「フランスの中学生に学校のルールを教える」という具体的な活動目標を設定したことで、積極的にアドバイスし合うなど、生徒が主体的な姿で取り組むことができた。
- ・活動の初めと終末に動画を撮影して見合うことで、表現の間違いに気付くことができた。また、2つの動画を比べることで、自身の変容や成長を実感することができた。

展開詳細

過程	学習活動	指導・援助
つ か む	<p>1. Small Talk Topic : What kinds of Dachi JHS rules do you know? Ex) We must wear school uniforms. / We must come to school at 8:10. We must not bring smart phones to school.</p> <p>2. 課題提示 Oral communication を通して、本時目指す姿を確認する。 ・ フランスの中学校生活を英語で紹介し、日本と異なる点を全体で確認する。 Ex) ・制服がない。 ・掃除をする必要がない。 ・自分の考えを授業で話さなければならない、など。</p>	<p>【「やってみよう」を生み出す具体的な課題】 フランスの中学生に日本の学校生活を教えるという目的で行う。導入でフランスの学校生活について話し合うことで、日本との違いに気付かせ、自分たちの生活について伝えたいという意欲を高める。</p> <p>・ 導入時の活動を通して、have to や must の用法を確認する。</p> <p>・ 既習事項や単語を使用し話すことを確認してメモ作りをさせる。単語等が分からない場合は教科書やデジタルブックを調べる。</p>
ふ か め る	<p>3. Practice (個人追究) ・ 自分が説明するルールや学校生活についてメモを作る。 ・ スピーチ練習をする。</p> <p>4. Activity 前半 (少人数交流) ・ グループ (3人) でスピーチを発表し合い、録画する。 ・ 動画を確認し、質問やアドバイスをする。</p> <p>5. Sharing Time (全体交流) ・ 活動の中で困ったことや分からなかったことを交流する。 ・ 詳しく説明している生徒を紹介し、共有する。 → Three times a week (回数) ・ Because などの接続詞や助動詞 must ・ have to を用いて話している生徒を紹介する。</p> <p>6. Activity 後半 (ペア交流) ・ 内容を追加・修正し、ペアでもう一度発表し、ビデオレター (動画) を撮影する。</p>	<p>【個別最適な学び】 必要に応じてヒントカードを使用できるようにする。単語など、言い方がわからないものは個別に指導する。</p> <p>・ 少人数交流では3人グループを作り、A : スピーチ・B : 聞き手・C : 撮影と役割を分けて活動を行う。</p> <p>・ 聞き手は質問やアドバイスを考えながら聞く。(詳しい情報を聞き出す)</p> <p>・ 質問やアドバイスは、具体的な情報(場所・回数など)を確認する。</p>
ま と め る	<p>【Let's introduce our school life! ~ 駄知中のルールや決まりは英語でどのように伝えるのだろうか ~】</p> <p>(Ex) Activity 前半 A) Hi ! I'm A. I'll introduce you our school rules. We must clean at school. We must not talk when we clean. B) Do you clean every day? C) Where do you clean?</p> <p>(Ex) Activity 後半 A) Hi! I'm A. I'll introduce you our school rule. We must clean three times a week. I usually clean my classroom. We must not talk with friends when we clean. It's our school rule. Thank you!</p> <p>7. 自己評価と振り返り ・ 動画を見て、自身の変容に気付く。 ・ ワークシートに本時の振り返りをする。</p>	<p>【協働的な学び】 Sharing Time を設定し、生徒の会話からよさに気付かせ、共有する。より詳しい内容を伝えられるようにグループでメモの加筆・修正をし合ってから、後半の活動を行う。</p> <p>【「できた、わかった」を実感できる終末の活動】 Activity の前半で撮影した動画と、最後に撮影したものを比較することで自身の変容に気付か、「できた!」と実感できるようにする。</p> <p>【評価規準】 話すこと(イ) 思考・判断・表現 駄知中学校のルールや学校での活動について、しなければいけないことやしてはいけないことを4文程度の英語で話している。</p>



学校情報化優良校に土岐市すべての小中学校が認定されました

土岐市では、タブレット端末の利用による学習支援を充実させたり、マイクロコンピュータ (micro:bit) を配付してプログラミング学習ができるようにしたりするなど、Society 5.0 時代を生きる力を育むための学習環境を整えてきました。同時に、教職員も各種研修を受け、情報機器を効果的に扱うスキルや指導方法を身に付けてきました。このような取組が認められ、この度、土岐市全ての小中学校が「学校情報化優良校」に認定されました。



「学校情報化優良校」認定は、日本教育工学協会(JAET)が2015年から行っている制度です。「情報化の推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校に対して、「学校情報化優良校」の称号が与えられています。

多くの先生が「ロイロ認定ティーチャー」「授業デザイントレーナー」に認定されました

各校でタブレット端末の活用が進み、学習や児童生徒会活動など様々な場面でタブレット端末を使いこなす子どもたちの姿や先生方の姿が見られます。特に、ロイロ・ノートを利用している様子が多く見られ、土岐市の学校にとって欠かせない学習支援ツールとなっています。

今年度、教育委員会では、より一層効果的にロイロ・ノートが活用されることを願い、ロイロ・ノートに関わる各種研修会を計画しました。中でも、8月に行った「ロイロ認定ティーチャー研修」には市内の多くの先生に参加していただき、熱心に研修を行っていただきました。その結果、多くの先生が見事「ロイロ認定ティーチャー」に認められました。現在、土岐市の認定ティーチャーは34名です。また、このうち4人の先生は上位資格の「授業デザイントレーナー」にも認定されました。なお、ロイロ認定ティーチャーは全国でわずか1,000人程度(今年度の8月末に1,000人達成)しかおりません。



土岐市のロイロ認定ティーチャー ※敬称略

笹岡 康孝 (土岐津小)・山口 敦史 (土岐津小)・高瀬 理恵子 (下石小)・田口 俊介 (下石小)・戸谷 美由紀 (妻木小)・竹澤 弘一郎 (妻木小)・瀬戸口 貴光 (妻木小)・長田 智子 (濃南小中)・宮下 蒼 (濃南小中)・◎柳原 伸哉 (駄知小)・佐々木 美樹 (駄知小)・大竹 洋輔 (駄知小)・平野 智帆 (肥田小)・坂巻 優太 (肥田小)・花嶋 恵 (泉小)・松本 未央 (泉小)・高木 亜緒生 (泉西小)・福岡 晶子 (泉西小)・高木 良太 (土岐津中)・安藤 亮 (西陵中)・各務 晴菜 (西陵中)・奥谷 治由 (駄知中)・福富 泰地 (駄知中)・山田 陸生 (駄知中)・伊藤 友子 (肥田中)・◎野田 大貴 (肥田中)・今井 亜沙弥 (肥田中)・◎阿部 聖一 (泉中)・廣岡 巧也 (泉中)・橋本 壮平 (泉中)・林 祥太 (泉中)・◎脇田 泰教 (泉中)・下島 裕司 (泉中)・三浦 篤弘 (ICT支援員)

◎の付いている4人の先生が「授業デザイントレーナー」です。4名の先生方には、市内の先生方が認定ティーチャーになれるよう積極的にサポートしていただきました。ありがとうございました。



「学校が楽しかったわ」

濃南小・中学校 副校長 土本 弥生

小学生の頃学校から帰ると、ピアノ教師でもない母が弾く伴奏で童謡と一緒に歌った記憶があります。随分年月が経ってから、「何で、お母さんはピアノが弾けるの」と尋ねたことがありました。母は「小学校、中学校の時に、音楽の先生がピアノを教えてくれたわ。」「家は貧乏やったけど、先生たちが大事にしてくれて、学校が楽しかったわ。」と昔の思い出を語りました。母は幼いころに母親を亡くしています。その苦労を想像しながら、学校が心のよりどころであったことを察しました。母は卒業してからも何かとその先生方を頼り、お亡くなりになられるまで交流がありました。

そんな母は私が教師になった時、本当に喜びました。きっと、母親のいない自分の寂しい思いを

受け止めてくださった先生、音楽の楽しさを教えてくださった先生、よき思い出のある学校の教師の仕事に携わることが嬉しかったのだと思います。

昭和の古くさい話ですが、今、私たち教師や学校に求められている「一人一人の困り感に寄り添い、一人一人を大切に育てる教育」と変わりません。

小・中学校で身に付けた力や人との出会いが、温かな思い出と共に一生につながる。教師という仕事のやりがいと重責をあらためて実感します。

もうすぐ、八十の半ばを迎える母は、ごつごつとした指でボケ防止と言いながら、ピアノを弾いています。その幸せな時間のきっかけをつくったのは学校、先生方でした。私に成すべきことを伝えている母の姿です。



【令和5年度 土岐市美術展幼少年の部 審査員総評】

指導の参考に
してください!



<平面作品の部：樋口 一成 先生>

◆小学生：低学年の「自分」が入っている絵では、カラフルな色で楽しさを表現できています。

中学年から高学年では、よく観察して詳しく描けています。明るい、楽しい、動き、空想などよく表現できています。

◆中学生：物をよく観察して描くことが大切です。

鉛筆の使い方を工夫して、存在感のある絵が描けています。

見る人に感じさせるメッセージ性が強くて、中学生らしいとてもよい作品です。

<立体作品の部：下総 平五 先生>

◆小学生：陶器の街として、粘土とは生活のいたる所で触れ合える環境（製品としても、素材としても）にあります。肌を通して直感的に楽しむ場をより多くもって、楽しさを十分味わってください。

◆中学生：線は面の変わり目にできます。立体のしめる空間は、その立体が押しつけた空気と立体に込められた情念の強さで大きくも小さくもなります。指先に込めた想いを一層熱く燃やしていきましょう。

<書写作品の部：新井 龍峰 先生>

◆小学生：全体的に、紙面の中におさまりによく書けています。子どもらしく、伸びやかに、そして元気よく書けていて、大変気持ちのよい作品が多く見受けられます。

細い線の作品も見受けられますが、太く、濃い用具で書かれると、さらに見ごたえのある作品になると思います。

◆中学生：筆づかいの「はね」「はらい」がしっかりとできた作品が多く見受けられ、将来が楽しみです。ただ、全般的に氏名が小さいので、もう少し太く、大きく書かれるともっとよくなると思います。

次回に期待します。